

教員になって間もない頃の思い出より

校長 矢嶋 健二



多度津町立四箇小学校
<https://www.yahiro-shi.ed.jp/shikagaku/>

大学を卒業して私が初めて教員（1年間の期限付き講師）として赴任したのは高松市立光洋中学校でした。のちに城内中学校と併合し、高松第一中学校となりました。高松商業高校の真裏の中学校で高松の市街地の学校でした。

善通寺の自宅から高松の学校まで1時間かけて毎朝通勤するのは大変でした。高松の市街地を通過して通勤するため、家を出るのが10分いつもより遅れると朝の渋滞に巻き込まれ、学校に着くのが40分近く遅くなってしまいました。慣れない4月は学校の始業時刻の8時に間に合わないこともありました。（当時はスマホもなく、学校に遅れることを連絡することができませんでした。）遅れて着くと、門で遅刻指導をしている生徒指導の先生に「矢嶋くん、先生が遅刻したら子どもに示しが付かんが〜。家が遠いのはわかるけど、早めにおいでよ。」とたしなめられたことを覚えています。

そんな遠方への通勤にやっと慣れ始めた6月、梅雨の時期です。授業の空き時間に私が廊下を歩いていると、渡り廊下の天井を校長先生と教頭先生が見つめていました。

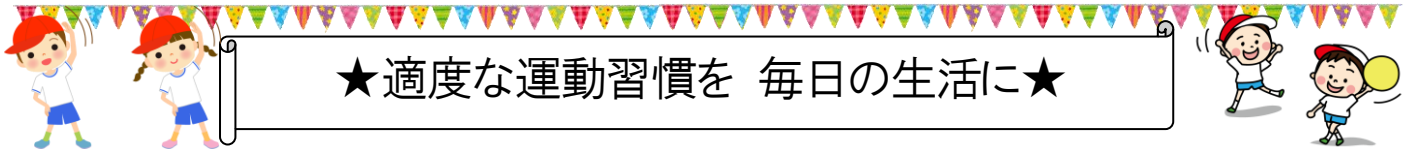
校長先生「あそこ、壁が少し落ちてきてないか？」 **教頭先生**「そうですね。あぶないですね。」

校長先生「教育委員会に報告や。矢嶋くん、カメラ、職員室から持ってきて!」

いわれた私がカメラを持ってきて渡り廊下に帰ると、校長先生と教頭先生が落ちかけていた天井の壁を落としていました。私が校長先生と教頭先生に「何をしていますか?」と尋ねると「壁がこれ以上落ちてきたら危ないし、このくらいじゃ教育委員会に報告しても直してくれんからな。矢嶋くんも、はよ手伝え。」とのこと。若かった私は「そのまま報告しなくてもいいのかなあ…」とためらいながら一緒に壁をつつきました。気さくで話しやすい、生徒想いで大好きだった管理職のお二人でしたが、その時の「もやもや」とした「いいのかなあ…」という気持ちを、今でもはっきりと覚えています。

歳をとって自分が管理職となった今、私は「当時の管理職は、危険箇所を発見し、危険を排除するとともに、生徒の安全を守るため、修理が必要と感じて壁を落とした」と理解できます。何もせず、あるがままの状態を教育委員会に報告して、修理されずに放置されることが学校として有益なのかどうか? そう考えると多少の道義上の問題はあってもいいかもしれませんが、あの時の管理職のお二人の行動を、学校や生徒を大切に想っての行動として受け入れられます。ただ、私にとっては、還暦近くになった今でも心に残っている、1学期の指針「正義」とは何か? と、いろいろ考えさせられる出来事です。

話は変わりますが、四箇小学校では2学期の指針として「信頼」という言葉を掲げていきます。子ども達に「どんな人が信頼される人か? そんな信頼される人になろう。」と呼びかけるとともに、これまで以上に、「信頼」される四箇小学校にしていきたいと考えています。2学期以降も、四箇小学校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



四箇小学校では、週に1度、2時間目の後の業間休みに「業間体育」を行っています。みんなで楽しみながら体を動かすことで、生活の中に運動習慣を取り入れて、毎日を元気に過ごしてほしいと思っています。6月後半から7月は「ラジオ体操」を全校生で行いました。全身を大きく動かすと、心も体もすっきり。その後、元気に外遊びを楽しんでいました。

まだまだ暑い日が続きそうですが、ラジオ体操ならおうちの中で、家族と一緒に取り組みます。

夏休みは残りあと9日。軽い運動を取り入れて、2学期への準備を始めてほしいものです。



【 手本を見ながら、大きく体を動かします。 】



【 子どもたちと先生、みんなでドッジボール。 】